

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023 年 3 月 31 日

〒 171-0022

所在地 東京都豊島区南池袋2-49-7池袋パークビル1F

評価機関名 パブリックサービスR&C合同会社

認証評価機関番号

機構 09 - 190

電話番号 03-4570-8659

代表者氏名 代表社員 臼井 淳



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	臼井 淳		H0405013
	②	萩原 康子		H1801071
	③	平沢 早苗		H1601012
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	家庭的保育事業			
評価対象事業所名称	保育ルームひよっこはちまん			
事業所連絡先	〒	183-0016		
	所在地	東京都府中市八幡町1-17-1		
	TEL	042-319-1424		
事業所代表者氏名	管理者 柴田 奈津子			
契約日	2022 年 10 月 28 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022 年 11 月 25 日			
利用者調査結果報告日	2023 年 1 月 13 日			
自己評価の調査票配付日	2022 年 11 月 25 日			
自己評価結果報告日	2023 年 1 月 13 日			
訪問調査日	2023 年 1 月 18 日			
評価合議日	2023 年 3 月 27 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、当機関における評価の進め方やスケジュールについて園と事前打ち合わせを行い、経営層及び職員に対して自己評価方法の説明を行いました。利用者調査は、入園している子どもの保護者全世帯を対象としたアンケート調査を実施しました。事業評価は、経営層及び職員個別の自己評価結果並びに利用者調査結果を分析した上で、評価者間で調査時の着眼点を共有し、訪問調査に臨みました。訪問調査では、施設長や関係職員に対するヒアリングと書類の確認を行いました。訪問調査後、評価者間の合議により評価結果をまとめました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。本報告書の内容を公表することに同意します。

2023 年 4 月 11 日

事業者代表者氏名 理事長 正田 達夫



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの最善の利益(子どもらしく生きることのできる場の提供・自分を最大限発揮できる場の提供) 2) 家庭的な環境の基に個々の発達に応じた生活力を身につける 3) 「自分でやってみたい」(自立心)、「自分でできた」(達成感)の気持ちを感じる 4) 保護者の就労支援・育児援助
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性豊かに思いをくみ取ることができ、子どもの気持ちに寄り添える。 ・子どもを否定的に見る事なく、個性を大切に思える。 ・子どもの気持ちを大切に考え、個性あふれる子どもたちがのびのびの過ごせる環境作りに尽力できる人 ・保護者と同じ気持ちで子育てを温かい気持ちで応援し続ける事のできる人 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保護者と共に子ども達に寄り添い、子どもの将来を想像しながら今現在の保育に責任を持つ。</p>

調査対象

令和4(2022)年11月現在、保育ルームひよこっこはちまんに在籍している子ども(総数5名)の保護者全世帯(5世帯)を対象として実施しました。

調査方法

アンケート方式。評価機関から保育園に対し、本調査のお知らせの園内掲示と、個別のパスワード(保護者を特定しない形式)を記載した調査案内用紙の配付を依頼して実施しました。保護者には当評価機関専用のWebアンケートサイトから回答を入力してもらいました。

利用者総数	5
利用者家族総数(世帯)	5
共通評価項目による調査対象者数	5
共通評価項目による調査の有効回答者数	4
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	80.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は、「大変満足」が100%(4名)と、回答した保護者全員が満足しているという非常に高い評価が得られています。共通評価項目でも、「はい」との肯定的な回答割合は、全17問中、16問が100%となっており、「いいえ」との回答はありませんでした。総合的な意見でも、「自宅保育のとき、こんな事やってあげたい、でも一人でやるには大変だなと思ってたことを、毎日思う存分経験させてもらっています。温かい先生方に囲まれ、子どもにとって第二の家のような安心できる場所になっていて、感謝の気持ちでいっぱいです」、「いつも丁寧に子どもと向き合って対応していただき、ありがとうございます。遊びはもちろん、お買い物や料理に関することなど幅広く学びの機会があり、子どもだけでなく保護者も色々と勉強になります。コロナ禍で大変な中、できる限り行事に取り組んでくださり感謝しかありません」、「いつも全く疲れを見せず笑顔で接して下さる皆さん、本当に尊敬です。子どもにとって何が大切かを常に考えながら保育して下さる園です。保護者の気持ちにも寄り添って話を聞いてくださいます」等との好意的なコメントが寄せられています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「色々な公園などに行ったり、目的地に行くまでも興味を持ったものに付き合ってくださいたり、たくさんの絵本やお歌を教えていただけて子どもも嬉しそうに話してくれるので、大変役立っていると思います」とのコメントが寄せられていました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「絵本や遊ぶもので新しいものが時々登場することを話をしてくれます。何かを制作したり、お団子作りなど季節の行事だけでなく、日常でもお野菜クイズなど、毎日同じものだけでなく、工夫をしてたくさんの刺激を与えてくれる環境だと思います」とのコメントが寄せられていました。				

3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「毎日工夫された献立で、色々なものを美味しく食べる機会になってありがたく感じています」、「いつも給食何かな〜と楽しみにしています。手作りでもとてもおいしく、おやつも栄養を考えられたものになっていてとても助かります。家でも作ってとリクエストが出るほどおいしいと子どもも感じているようです」とのコメントが寄せられていました。</p>				
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「毎日色々な公園や山へ連れて行ってもらうお陰で公園などへ連れて行くとそこにある物(自然の葉や実、石など)で工夫して遊ぶようになりました」、「連携園のお友達との交流や近所お友達と遊んだり、おじいちゃんおばあちゃんとのふれあいがあったりと、保育園だけでなく地域の方ともお話ししたりたくさんのお機会があると思います」とのコメントが寄せられていました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「いつもお電話で快く受け入れてくださり、対応していただいています。ありがとうございます」とのコメントが寄せられていました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「道路での確認、避難訓練の実施、保護者も参加する引渡し訓練など色々対策されていると感じます」とのコメントが寄せられていました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「予めこちらの予定を聞いてくださるので、父母ともに参加できて嬉しいです」とのコメントが寄せられていました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「気になっていることを伝えていると、保育中にあったことをきちんと報告して下さいます。相談にも時間を取って対応して下さいます」とのコメントが寄せられていました。</p>				

9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「いつもきちんと整理されていてとても綺麗だと思います」とのコメントが寄せられていました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「園のTシャツ&トレーナーがかわいいです」とのコメントが寄せられていました。				
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「すぐに連絡くださり事細かく教えてくれます。こちらがすぐにお迎えにいけない場合も様子を見て変化があれば連絡してくれるので助かります」、「転んだときもすぐにバッグから消毒を取って対処してくださったり、お熱のときも水分補給もしっかりしてくださり助かりました」とのコメントが寄せられていました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「見守りと危ないときとでしっかり対応してくださり、報告もしていただけているので安心してお願いできます」とのコメントが寄せられていました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「園生活で強制ではなく、自分から行動できるまで付き合ってくれている話をよく聞くので、そう思います」、「いつも気持ちに共感しつつも悪いことを注意してくださっていると思います。しっかり褒めてもいただけるので、子どもも嬉しそうに話してくれています」とのコメントが寄せられていました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	4	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「いつも連絡帳にその日の出来事を丁寧に記載されています」、「連絡帳以外にもお迎え時や時間があるときに、あった出来事をお話して下さいますし、何かあった時もこういう対応しましたと説明して下さるのでとてもわかりやすいです」とのコメントが寄せられていました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	4	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	3	0	0	1
<p>回答割合は、「はい」が75.0%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	子どもの最善の利益を基本に、子どもらしい子どもを育てることを理念に掲げています 「子どもの最善の利益を基本に、子どもらしい子どもを育てる」の保育理念のもと、「それぞれの子どもの育ちと自己主張を大切にしてみんなが笑顔で通える保育園」等を保育目標に掲げ、園の「全体的な計画」に記載して職員に周知しています。リーフレットや保育のしおりには、家庭的な環境のもと個々の発達に応じた生活力を身に付けること、少人数での環境により心身共に安定した成長をすること、「できた」の気持ちを感じることを目指した保育を行うとの目標を記載し、保護者に伝えています。さらに理念や方針も整理して明示することが期待されます。	
	管理者は、日々の保育の中で職員間、保護者との間に入り、問題解決にあたっています 家庭的保育者(管理者)を含む保育士3名と調理師1名の4名の職員が、同一法人内の連携認可園の園長や看護師、栄養士の支援も得ながら園運営を行っています。管理者は、日々の保育の中で職員間、保護者との間に入って問題解決にあたり、職員のモデルとなるよう心がけ、職員には良いことも悪いことも意識して伝えながら助言・指導に努めています。法人のキャリアパスのもと、業務分担表等を作成して個々の役割や業務内容を明示していますが、今後、法人内のリーダー職・指導職内の職位に応じた権限や責任を明確化することも必要と思われる。	
	職員会議を中心に、法人の決定事項の周知と園の取り組みの検討・決定を行っています 経営・運営に関する事項は、法人理事長と連携認可園の園長で検討・決定を行い、毎月の職員会議や毎日の打ち合わせを通じて管理者から職員全体に報告・周知しています。これらの中で保育活動や個々の支援内容の検討・決定も行っているほか、小規模な組織のメリットを活かし、小さな出来事も迅速に全職員に伝達し、随時相談しながら園運営を進めています。職員会議のレジュメや会議録、毎日の業務日誌により、議題や目的、内容、結論を明確にして職員間での情報共有を徹底しています。保護者には、毎月の園だよりや掲示等で重要な情報を伝えています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
○あり ●なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

保護者や職員の意向、地域の現状等を収集・把握し、保育への反映に努めています

半期ごとの保育アンケートや保護者参加行事後のアンケートを実施して保護者のニーズの把握と保育への反映に努めており、集約結果と丁寧な回答を保護者に配付しています。職員の意向は、連携認可園の園長の面談のほか、管理者が日々の会話を通じて把握し、地域の現状や課題は、府中市からの通知や私立保育園長等連絡会への参加により収集・把握しています。経営状況は、法人で作成した予算・決算が伝えられ、財務情報等も職員や保護者に公表していますが、法人との協議の場も設け、当施設の改善課題に合わせた予算提案等ができると思います。

当園として対応すべき課題を抽出し、中・長期計画の策定につなげることが望まれます

法人及び連携認可園の中・長期計画があり、この10年で達成したことを振り返り、今後5年で達成したいこと等を明確にしています。しかしながら、当園に直接関わる内容が設定されていないこともあり、職員には共有されていません。収集・把握した意向やニーズ等から、保育面に限らず、施設の運営・業務上に関わる課題も含めてリストアップし、複数年かけて解決していけるように、課題別の取り組みや、その着手時期、実行期間等を法人の中・長期計画に盛り込んだり、当園単独の中期計画を策定するなどして、方向性を明らかにすることが望まれます。

年度の園の事業計画を作成し、全職員で取り組みを進めていくことが期待されます

年間の行事計画や研修計画、指導計画、保健計画等を作成しています。同一法人内の連携認可園では、毎年度、「保育事業内容」を作成し、基本理念や保育方針、地域の現状、中・長期計画、事務・業務や会議、係、行事の枠組みや取り組みの骨子、職員の心構え等をまとめています。この保育事業内容を基に当園の事業計画をまとめ、全職員に周知して進め、結果を事業報告や年間報告で振り返る仕組みを作ることが望まれます。コロナ禍で制限されていた法人内の密な連携を再開し、法人の理念実現のための当施設の在り方を再検討していくことが期待されます。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇●)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>守るべき法・規範・倫理等は、就業規則やマニュアルを通じて全職員に周知しています</p> <p>入職時には、就業規則等の遵守についての誓約書を職員と取り交わし、服務や個人情報保護、公益通報者保護、ハラスメント防止等の各種の規定に変更があった際には全職員に周知しています。入園のしおりや重要事項説明書に相談・苦情窓口(第三者委員や市の担当課等)を記載して入園時面接で伝え、苦情等があれば連携園の園長等と協力して対応し、記録簿に残す仕組みとしています。虐待防止マニュアルを備え、職員は言動に関する自己チェックリストで振り返りも行っています。家庭での虐待等にも関係機関と連携して対応する体制を整えています。</p> <p>地域への貢献に向けて、子育て支援の企画や園からの情報発信の充実が期待されます</p> <p>同一法人内の連携認可園のホームページに当園の概要を載せ、コロナ禍でも一定の見学者を受け入れて、園の情報を開示しています。ボランティアや実習生については、受け入れを自粛しています。近隣の人々と積極的に挨拶を交わし、公園で在宅の親子と一緒に過ごすなど自然に地域に溶け込んでおり、市内の連携園2園との交流・連携を通じて保活応援フェアにも参加するなど、地域の共通課題に協働できる関係を築いています。今後、未就園児に向けた離乳食試食会等で子育て相談に応じることも検討しており、積極的な企画と情報発信の充実が期待されます。</p>		

4 カテゴリー4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>各種マニュアルの整備や研修を通して、感染症対策と事故防止に取り組んでいます</p> <p>感染症対策と事故防止に力を入れており、園内に各種マニュアルを整備して周知し、職員は危機管理や救命・応急手当に関する外部研修も受講しています。保育でのヒヤリハットを保育日誌内で共有して予防に努めるとともに、日頃から病気やけがをしない身体作りに取り組むことで、近年は事故が殆どない状況です。園の子どもたちが安全かつ円滑に日々を送れるよう、必要なときにはいつでも連携認可園の園長など法人経営層と話し合い、迅速に対策を講じることができています。保護者には、園だよりや保健だよりを通じて安全に関する情報を提供しています。</p> <p>防災マニュアル等の整備に加え、事業継続計画(BCP)の共有や策定も期待されます</p> <p>防災マニュアルや震災時の時差退社計画を整備するとともに、災害時の避難方法や場所等を記載した「防災の手引き」を職員や保護者に配付しています。備蓄を確保し、設備の自主点検を毎日、避難訓練や非常持ち出し袋の物品チェックを月1回、引き渡し訓練を年1回実施しています。連携認可園では、大規模災害対応計画を策定し、発生時間・場所に応じた職員の動きや園内での生活の維持、帰宅困難者、復旧と再開等の対応をまとめていることから、災害時の協力・連携体制も考慮して計画を共有したり、当園のBCPの策定に活かしていくことが期待されます。</p> <p>セキュリティを確保しつつ、必要な情報を全職員が活用できるよう管理に努めています</p> <p>パソコンは、全職員が使用できるようにする一方で、ネットワークへの接続を限定し、パスワード設定等によりセキュリティを確保しています。書類も種類別にファイリングしてラベルを付し、使いやすいよう整理しつつ、外部への持ち出しを制限しています。今後の施設管理等の在り方の再検討と、情報管理の規程・マニュアルの整備が望まれます。個人情報の保護に関する規程を定め、第三者提供や園内掲示等について保護者の同意を得ていますが、実効性ある管理と法改正対応のため、他の利用目的や開示請求の手続き等も保護者に明示することが望まれます。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
◎あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

人材の育成や風通しの良い職場作りの観点も踏まえ、職員の配置・異動等を行っています

多様な媒体を通じて職員を募集し、書類選考と連携園の園長や施設長の面接により適性等を考慮して選考し、法人として採用を決めています。ゆっくりと当法人の考え方を身に付けてもらえる人材の採用を図っていますが、当園は少人数のため、経験豊富な職員を配置しています。就業規則や給与表を定め、管理者から職員へ期待することも伝えていきます。配置や異動は、連携認可園の園長を中心に、個々の希望や、連携2園を含めた職員の年齢構成、人材育成、風通しの良い職場作り等の観点を考慮して総合的に検討し、適材適所の人事となるように行っています。

キャリアパスや個々の希望を基に、職員が研修を受講できるよう組織的に支援しています

入職時に研修を実施し、職種や勤務に応じた職務内容やキャリアパスを周知しています。正職員は年2回以上、非常勤は年1回以上の研修受講を必須とし、各自の「研修等目標」の希望を基に派遣しています。受講は勤務扱いとし、受講後は学んだことや考察等を報告書にまとめ、回覧や会議で成果を共有するとともに、1か月、6か月、1年後に個々に振り返りを行っています。全職員の年間の研修参加一覧表をまとめ、キャリアパスや個人目標に沿った年間の行動の自己評価、施設長や連携認可園の園長との面談を通じた評価の結果を給与等に反映しています。

小さな職場の中で職員が日々思いや気付きを共有し、課題の早期解決につなげています

法人として働き方改革を進め、1か月単位の変形労働時間制を導入して柔軟な勤務を可能にし、介護や通院、育児等の事情でも休みが取りやすいよう配慮しています。全体の離職率も低く、65歳以降の雇用の在り方の検討も進めています。当園は、定員5名に職員4名という手厚い配置である一方、人数が少ないため休憩や休暇が取りにくい状況もあり、職員が互いに声をかけ合い、助け合う関係を築いて就業状況を良好に維持しています。小さな職場だからこそ、職員が日々話し合っって思いや気付きを共有し、課題の早期解決につなげることができています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「法人の基本理念、方針を理解した上で、職員全員が同じ保育の方向性を同じにし、保育の質の向上を図る」ことに取り組みました。日々の保育を振り返り、保育者の関わりにより子どもの発達にどのような影響があるか等について話し合う場を多く持ってきました。また、同じ研修を受け、その内容について話し合うことで、自らの園における保育の振り返りを行いました。職員個々の取り組みや目標設定もできるようになり、保育の見通しがしっかり持てるようになってきました。職員間で話し合うことで、保育の方向性を確認し合うことができ、それにより保育の質の向上が図れてきたと自己評価をしており、今年度は職員の異動もあったため、取り組みを継続することとしました。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員の自己評価では、「園の保育方針を理解し、職員が共通理解できている」、「子どもの自主性を大切にし、今後、子どもが成長していく過程を長期にわたり思春期まで見据えた保育を目標にしている保育方針が素晴らしい」、「職員間の連携が取れている」等を当園の良い点として挙げられています。利用者調査(保護者アンケート)における非常に高い評価からも、職員が同じ方向を向き、思いを共有して日々話し合いながら保育を進めていることが保育の質向上につながっている様子が窺えます。一方で、目標に対する取り組みの経過や結果、次年度への反映に関する記録には曖昧な部分も見られ、事業計画や事業報告の中で明確にしていくことが望まれます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子ども個々の発達に関する専門的な知識が必要になってきたことから、「少人数の保育を生かし、より専門的な保育を深める」ことを目標としました。職員が専門的な研修を受けたり、職員間でも学びの場を持って専門知識を共有することに取り組み、個々の発達に対し理解を深め、より寄り添った保育ができるようになりました。少人数の保育を活かし、今年度も専門的知識をより一層深め、保護者対応にも役立てていくこととしました。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員の自己評価では、当園の良い点として「子どもの発達具合に応じて個々に対応できるのは、そこに重要性を置いているから」、「職員全員が一人ひとりの子どもに合った保育をし、専門的な対応が取れるようになっている」、「関係機関とも連携を取り、課題がある家庭の子どもだけでなく保護者についても一緒に見守り、手助けする取り組みを行っている」等が挙げられています。さらに、これらの取り組みについての目標や手段をより具体的に事業計画等に設定していくとともに、事業報告に結果や成果を明確に記載していくことが望まれます。利用者調査(保護者アンケート)では、「発達の遅れ等が気になる子どもにどういった対応してくれる園なのかが分かると、同じような悩みを持つ保護者の参考になるのではないか」との声も寄せられており、より意識的に利用希望者等に伝えていくことも期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学が要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>当園の情報は、リーフレットやホームページ等を通じて分かりやすく提供しています</p> <p>当園の情報は、リーフレットやホームページで提供しています。リーフレットには、園の目標、定員と一日の流れ、自然と触れ合い伸び伸びと体を動かす活動を写真とともに紹介しています。同一法人内の連携認可園が管理するホームページでは、連携園の紹介という形で概要を載せています。また、福祉・保健・医療の総合情報サイト、子ども子育て支援情報公表システムに情報を掲載しています。子どもと職員が1対1の配置、ゆったりとした時間の流れの中で安定した心身の成長や自己肯定観を育む方針等について、利用を検討する人に広く情報提供しています。</p> <p>利用希望者が情報を入手しやすいように、行政や関係機関に情報を提供しています</p> <p>府中市役所には運営状況や活動の情報を定期的に提供しており、市内の子育てに関する情報誌「子育てのたまたま箱」には、園の保育方針や定員、保育時間、延長保育等について掲載しています。市が主催する未就園児の保護者を対象とした保育園等を紹介する合同説明会に際しては、園のパンフレットを提供するなど、利用希望者の情報入手に役立てています。また、市内で子育てや発達を多面的に支援する様々な団体と情報を交換しています。入園を希望する保護者の相談に乗り、また支援団体を通じて保護者に園の情報が伝わるような関係作りを進めています。</p> <p>問い合わせや見学者には、当園の特徴や様子について丁寧な説明に努めています</p> <p>問い合わせや見学の案内は、希望者の都合に応じ、子どもの様子を見てもらうことを大事にしています。コロナ禍では、外から見てもらったり、お散歩で子どもが出ている時間帯に部屋の様子を確認してもらったりなど、子どもが過ごす環境を実際に目にできるよう工夫しました。また、入園の審査に関して、地域型保育事業の当園は、必要な保育時間の長さが優先されない基準となっていること、家庭的な雰囲気と充実した職員配置が乳児期に適した環境であること等を伝えています。見学時に受けた質問と、その場でした説明を記録し、効率的な説明につなげています。</p>	

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園面接や利用前の面談で保育園の基本事項を説明し、保護者の同意を得ています</p> <p>入園面接や利用の決定後の面談で、保育園の生活に関する基本事項、健康管理等について説明しています。「重要事項説明書」、「保育のしおり」に沿って具体的なサービス内容、園での活動、持ち物など必要な準備について伝えています。また、各家庭での協力が必要な生活の基本的なルールについても理解を得ています。面談は子ども同伴で、関わり方等を確認する機会にもなっています。なお、個人情報の取り扱いのほか、アレルギーや熱性けいれんなど個別の配慮が必要な場合の対応等については、詳細を聞き取り、書面で同意を得ています。</p> <p>個別の状況の把握と「慣れ保育」の実施により、円滑なサービス開始につなげています</p> <p>面談では、保護者の保育に関する希望や育てほしい子どもの姿を聞き取り、就労状況など家庭の事情、子どもの呼び方、好きな遊び、入眠時の癖等を記録しています。園が「第2のおうち」となるよう、家庭のペースを優先的に取り入れており、子どもが環境の変化に馴染めるように情報を活用しています。また、慣れ保育(短縮保育)の期間を約1週間設け、保護者も同室で過ごす時間を作っています。保護者と一緒にいるのを見て、保育者を信頼できる大人と認識してもらうとともに、子どもと離れる経験が初めての保護者の不安の解消にもつなげています。</p> <p>子どもの卒園・転園時にあたっては、様々な取り組みにより支援の継続に努めています</p> <p>子どもの卒園・転園時には、継続的な支援につなぐ様々な取り組みを行っています。保護者と面談の機会を設けて不安等を把握し、了解を得た上で各種支援機関との連携を図っています。3歳での卒園後、希望者は同一法人内の連携認可園に編入する枠が確保されており、在園中から近隣の連携園2園の子どもと交流する機会を取り入れています。移行先については、立地や保育内容等の希望、他園や先輩卒園児の状況も踏まえ、相談に乗っています。連携認可園に編入する場合は、個別記録を引き継ぐなど、これまでの関わりを基に支援の継続につなげています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 11/12

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(0000●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

保育する上で必要な子どもの情報は、連携園共通の書式に記入して把握しています

保育する上で必要な子どもの情報は、連携園共通の書式(保育日誌、児童票、健康観察票)に記入して把握しています。また、保護者との個人面談記録、個別成長記録、年間指導計画、保護者の就労証明書、保育給付に係る認定現況届、乳児医療証、新入園時面接表は、個別のファイルにまとめ整備しています。子どもの状況に応じた保育を実施するために、家庭や関係機関と連携して子どもの姿を記録し、必要に応じて見直しています。これらの記録は、職員同士が子どもを知るための貴重な資料となっており、今後に向けて施設管理の徹底が期待されます。

日々の保育内容と子どもの変化を職員間で共有した上で、成長の推移を記録しています

子どもに関する記録を整備した個別ファイルは、いつでも取り出すことができ、職員は必要に応じて確認しています。子どもの変化や成長の推移は、保育日誌「目標に達するまでのプロセスと子どもの姿」に細かく記入されており、第三者が読んでもその場の情景が思い浮かぶような記録となっています。個別面談は、昼寝から目覚めた3時を目安に開始し、家庭的保育者が中心となり実施しています。親子がリラックスできる雰囲気を作り、子ども達の遊びの様子を見ながら話を進め、新たに把握した家庭状況や保護者の要望は、すぐに職員間で共有しています。

年齢別・個別の指導計画を、保護者に分かりやすく説明する仕組み作りが期待されます

保育理念、基本方針に基づいて「全体的な計画」を立案し、年齢に応じて個別の年間指導計画を作成しています。配慮が必要な子どもには療育計画を作成しています。指導計画を基に保育を実施する際は、養護の視点を重要視しています。個別の計画は毎月、年間指導計画は期ごとに見直しています。毎月の園だよりは3枚綴りにして、子どもの様子や保育の意図を丁寧に知らせています。今後は、園だよりや連絡帳に年齢別のねらいを記入したり、個人面談で個別の指導計画を提示し課題を伝えるなど、保護者に分かりやすく説明する仕組み作りが期待されます。

サブカテゴリ-5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリ-5の講評

個人情報やプライバシーの保護、子どもの羞恥心に配慮した保育を進めています

個人情報の使用に関しては、あらかじめ保護者に意向を確認しており、医療機関や支援機関など外部との子どもの情報の共有が必要な場合は、その都度保護者に伝えていきます。また、人としての好奇心、羞恥心の芽が育つ2歳くらいの時期を見極め、排泄やシャワー等の場面では子どもの理解に応じて、仕切りの中で着替えたり、扉や目隠しの意味や使い方を伝えるなどしています。なお、子どもが何かに失敗した際は、周りに気づかれないことに注意を払ったり、気持ちを傷つけることにつながる言動をしないことの徹底を図るなど、羞恥心に配慮しています。

一人ひとりの気持ちを考えながら、丁寧に関わることを大切に保育を行っています

園として「個々の発達に応じた生活力を身につける」ことを方針に掲げ、成長過程は子どもにより異なることへの理解を深めています。また、保育の基本となる「子どもの最善の利益」を追求する姿勢がどのような言動になるべきか、職員は常に意識しています。主張する気持ちが見られれば、職員が言葉にして一緒に口にするなど訴えたいことを仲介しています。気持ちを口にする事への抵抗を軽くすることを大事に考え、「～されて嫌だったと言おうね」、「お友達も同じ気持ちだったと思うよ」などの声を掛けながら、一人ひとりの気持ちを尊重しています。

子どもや家庭の状況、価値観を把握し、関係機関とも連携して適切に支援しています

「虐待防止マニュアル」を備え、職員の虐待への理解を深めています。また、外部の研修に参加して、職員の言動の振り返りのきっかけにするとともに、子どもへの接し方に悩む保護者に対して、適切な助言の仕方についても情報を得ています。さらに、外部の発達支援の専門家が定期的に来園する機会があります。多様な育ちに対する接し方を間近で見え意見を交換したりアドバイスを受けるなどの機会は、職員の知識習得につながっています。子どもや家庭の様子等について職員間で共有し、連携認可園や関係機関とも連携しながら適切な支援に努めています。

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○●)	
評価	標準項目		
○あり ◎なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>園独自の詳細なマニュアルを作成・整備し、業務の標準化に向けて活用しています</p> <p>園独自のマニュアルとして、事故防止、感染症予防、水遊び・プール遊び、SIDS対策、保健関係、給食関係、子どもの人権擁護、アレルギー対応等を備え、風水害時の対応や虐待防止は市が作成したものを活用しています。乳児対象で小規模な園に合わせて独自に編集し、大事なことについて細かい動きまでイメージできるように書き込み、水遊びなど季節の活動は、始まる前に全員で基本を確認しています。また、毎年行われる市の指導検査を、基本事項や手順を改めて確認するタイミングとしています。さらに計画的な改訂・充実への取り組みも期待されます。</p> <p>役職や経験による職務内容を明示しており、自らの業務を振り返る仕組みがあります</p> <p>役割による職務を明示するとともに、保育活動について主な分担を定めています。日課に合わせ、時系列で活動の準備や水分補給等を整理し、リーダーとサブの役割分担について整理しています。また、園が目指す保育を一定以上の水準に保つため、コミュニケーションを密に図って保育の方向性を確認し合っています。さらに、保育について経験別に求められる業務を整理し、自らができているか確認する仕組みを持っています。子どもの思いを代弁した言葉かけ、生活スキルを身に付けるための温かい関わりができる、などを振り返る機会となっています。</p> <p>活動について保護者の意見を取り入れ、職員も日常的に提案する体制となっています</p> <p>保育の基本事項や手順に関しては、日常的に職員間で留意点等を確認しています。職員が皆で意見や提案を出して検討する体制が整っており、分からないことがあれば施設長をはじめ他の職員に相談できる関係性となっています。保護者からの意見には日々柔軟に対応することを心がけており、併せて定期的に保育に関するアンケートをとっています。行事の内容やタイミングなどは保護者の意見を取り入れ、防犯対策の強化を検討する中では、屋内の施設や外の扉について職員の発案を取り入れるなど、子どもの安全確保やサービス向上を進めています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 32/34	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		●非該当
評価項目1の講評			
<p>全職員で子どもの姿を把握して一人ひとりを見守り、信頼関係を築いています</p> <p>園全体で5名の子どもを3名の職員が手厚く保育しています。職員は迅速な情報共有に努め、子どもの様子を十分に把握し、一人ひとりを見守っています。個々の遊びを邪魔されることなく、集中できる空間を作るために、折りたたみ式のパーティションを活用するなど工夫しています。上半期は全身を使った遊びを多く取り入れ、下半期は描く表現など手指を使った遊びに力を入れています。配慮を必要とする子どももみんなと一緒に活動し、絵本の読み聞かせや動物の人形を使ったお話(簡単な人形劇)を楽しみ、大きな家族のように信頼関係を築いています。</p> <p>身近な物への子どもの興味・関心を引き出す環境を作り、様々な玩具を提供しています</p> <p>年度当初は0歳児の誤飲・誤嚥に注意して玩具を選別しています。五感を刺激する遊びを念頭に天井から吊るす玩具、年齢に合った絵本の配置を考え、プラスチック製品を減らし、木製玩具を多く提供しています。職員の考案による手作り玩具が豊富にあり、子どもが作ったもので遊ぶことも大切にしています。連携園との交流「移動水族館」でもらった生き物(どじょう、めだか)や、カブトムシの飼育活動にも取り組んでいます。子どもの気持ちを瞬時に受け止め、温かい言葉をかけ、身近な物への興味・関心を引き出せるように玩具を整備しています。</p> <p>子ども同士のトラブルは、双方の気持ちを尊重し、肯定的な援助を前提に対応しています</p> <p>職員は日々の保育について話し合い、様々な場面での対応方法を考え、互いに保育の意図や目的を伝えながら共通理解を深めています。子どもたちは職員を名前呼び、困ったときはいつでも助けてくれる身近な存在となっています。発達の過程で生じる子ども同士のトラブルは、子どもの気持ちを代弁し、双方の気持ちを尊重しています。保護者の迎え時には、原因や職員の対応等の経緯を家庭的保育者が伝えていきます。言葉で上手く表現できないため思わず手が出てしまう時期であり、肯定的な援助を前提に発達の見通しや子ども同士の関わりを説明しています。</p>			

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登園時は健康状態の聞き取り、保護者との会話を中心に子どもの様子を確認しています

毎朝の受け入れはテラスで行っています。検温中に顔色や機嫌等を視診し、子どもの体調について保護者に確認しています。家庭での睡眠がとれていない、朝食を食べていないなど保護者との会話を日々重ねています。家庭での生活を含めた24時間を視野に入れて連携するために、連絡ノートの記載事項にもしっかりと目を通しています。現状の姿を保護者と共有し、異常を発見した場合は受診を勧めています。その日の体調に応じて、37度5分以上の発熱があった場合は、保育の受け入れはできない旨を入園説明会で説明し、予め理解を得ています。

生活習慣の自立を目指し、子どもたちの気持ちに寄り添い、個々の意欲を育てています

子どもたちは実際の家庭よりも少し大きな集団生活の中で、多くのことを学んでいます。個々の生活環境や体調に気を配り、夏場はシャワー、冬場はタオルで全身を拭いて清潔の心地よさを知らせています。2歳児には体の部位を言葉で伝えながら、顔から拭いていく順序を教えています。衣服の着脱では、家庭的保育の良さを活かし時間に捉われず、「寒くなったから着よう」と自ら気付いて行動するまで、子どもを信じて見守っています。発達段階や心理状況を把握し、子どもにゆったりと関わり意欲を育て、生活習慣の自立に向けて援助しています。

子どもの個々の様子を降園時に丁寧に伝え、生活の安定や保護者の安心につなげています

登園時に子どもを受け入れた職員は、迎えの時刻まで勤務しており、一日の経過を保護者に詳しく伝えることができます。異年齢の小集団での生活を通して、できるようになったことや頑張ったことなど、その日の出来事を毎日知らせています。連絡帳や口頭で日々の保育内容や子どもの様子を丁寧に伝え、育ちの姿を共有し、育児不安や悩みの解消を図っています。昼寝は個々の生活リズムに応じて、午前・午後2回の睡眠から午後1回の睡眠に移行しています。個人差や体調に配慮し、必要な休息を保障しながら、夜ぐっすり眠れるよう家庭と連携しています。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

乳児期の子どもが主体的に活動し遊び込める環境を整え、自己肯定感を育んでいます

子育ての基本は乳児期にあるという考えのもと、子どもの主体性を育てるために、自ら考え動きたくなる環境作りに努めています。抱っこやおんぶを求めるときは満足するまで応じ、意志を持ち始める時期には、子どもの主張を可能な限り叶えています。職員は遊びを制限せず、何かあればすぐに手を差し伸べられるようにして見守っています。トランポリンやソリ遊びでは、「やってみたい」、「できた」という気持ちを大切に育てています。子どもの成長に合わせて保育室のレイアウトを変更し、玩具や道具を豊富に揃え、遊び込める環境を作っています。

子どもたちは、思いが尊重された生活を送り、戸外で存分に遊んで季節を感じています

個々の思いを汲み取り気持ちが満たされるよう、子どもへの指示命令を控え、時間を気にすることなく様々な活動に取り組んでいます。毎日の散歩では、日常的にバスや電車に乗って遠くまで出かけています。調理師は給食を弁当箱に詰め替え、散歩先の公園に届けています。野菜の栽培や戸外遊びを通して、草花、空、風、雲、土、樹木などの自然に親しみ、歩く力や体力を養い心身の発達を促しています。子ども達は季節の変化を感じ取り、夏は「雲たくさんある」、秋は「雲ないね(秋晴れ)」、「いい風吹いた」など、言葉で表現し伝え合っています。

表現遊び、運動遊び、戸外遊びを通して、子どもに決まりを守る大切さを知らせています

自由に色を塗って表現した作品は、子どもの大好きな電車、ドクターイエロー、新幹線等の形に職員が仕上げて保育室に飾り、物を大切にすることを伝えています。折り畳み式のパーティションを活用し、滑り台やバランス遊びなど粗大運動を取り入れ、体幹を鍛えるとともに順番を守ることで楽しく遊べることを知らせています。散歩で公共の乗り物を利用する際は、バスの降車ボタンは大人が押す約束になっており、「もしも押してしまったら、みんなで降りて歩きましょう」と子どもたちに分かりやすく話し、決まりを守る大切さを教えています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが興味・関心を持って参加できるよう、乳児期からの積み重ねを大切にしています</p> <p>0～2歳児5名の異年齢保育を通して、季節に合ったものを日々の保育に取り入れ、行事を実施するという家庭的保育事業としての考えを持っています。大々的なイベントではなく、少人数ならではの特徴を活かし、子どもの興味を引き出す工夫をしています。紙と絵の具をさり気なくテーブルに置き、興味を示した子どもが歩み寄り、個々に描いた作品を季節の壁面装飾に仕上げ、伝承行事や季節の行事につなげています。「冬至の会」では柚子の足湯に浸かり、「はちまん縁日」では金魚すくいなど、季節を感じる体験を積み重ねています。</p> <p>誕生会、伝承行事、連携園との交流活動を通して、子どもたちの経験の幅を広げています</p> <p>誕生会は、入所している5名の誕生月にそれぞれ開催しています。当日はハンバーグ等のパースデーメニューを提供しています。伝承行事は年間予定表に沿って、七夕、月見、クリスマス、新年の会、節分、桃の節句を実施しています。また、近隣の小規模保育事業の連携園との交流保育「ひよっこ交流」を毎月行っています。普段とは異なる場所や友達に慣れることを目的に、連携園と連絡を取り合い、浅間山等の散歩先で交流するなど、人との関わりを広げています。3歳以降の保育を見据えて、同一法人の連携認可園の行事にも参加する機会も設けています。</p> <p>子ども・保護者・職員が共に楽しむ環境を作り、保護者の理解と協力が得られています</p> <p>親子で参加する行事の日程を決める際は、保護者の就労に配慮し、全員が参加できるよう希望日を聞いた上で調整しています。6月に実施した「親子で遊ぼう会」では、日頃の遊びを紹介し、ゲームを楽しみながら保護者と職員が交流しています。保護者同士の距離が近く、話しやすい雰囲気があり、我が子だけでなく他の子どもにも接して親睦を深めています。行事後のアンケート結果を園だよりに掲載して保護者にフィードバックしたり、散歩先で集めた自然物で作った子どもの作品を家庭で飾るなど共に楽しむことで、理解と協力が得られています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもへの関わり方や玩具の提供に配慮し、安心してくつろげる環境を作っています</p> <p>長時間保育を必要とする子どもは少なく、登園から降園まで同じ職員が保育にあたっています。家庭的な落ち着ける雰囲気大切に、子どもが不安になったときは、スキンシップを十分に図り、気持ちに寄り添っています。夕方の時間帯も日常保育の延長として捉え、この時間帯ならではの玩具を用意し、一人ひとりの時間を楽しく過ごすように配慮しています。一緒に遊んでいた友達が帰ると、遊びを一区切りして立ち上がり、職員の手を引いて倉庫に行き、ボールプール等の玩具を選ぶ姿があり、子どもが安心してくつろげる環境を作っています。</p> <p>一日を通して子どもたちが楽しく過ごせるように、一人ひとりの思いに応えています</p> <p>通所している子どもの大半が保育短時間認定のため、朝受け入れた職員が迎え時に対応しています。一日の様子を把握して個々の連絡帳に記入し、口頭でも保護者に伝えています。保育形態に大きな変化はなく、少人数保育の良さを活かして、子どもと職員との一対一の関わりを心がけています。職員の上で絵本を読んだり、気に入った玩具を一人で長いこと使って楽しんだり、子どものやりたいことが十分に保障されています。家庭と同じように自分の居場所があり、保育時間が長くなったとしても不安にならず、リラックスして過ごせる環境があります。</p>		

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当

評価項目6の講評

落ち着いて食べられる環境を整え、子どもたちは毎日の給食を楽しんでいます

調理室と保育室は隣り合わせになっており、給食が完成するまでの過程を子どもたちは五感をフルに使って感じています。具材を炒めたり揚げたりする音や、食欲をそそる香りに「ご飯できた？」と聞きに来る子どもの姿が日常的にあります。「完食を目標としない」という方針のもと、職員は共通認識を持ち、一人ひとりの子どもに応じた量を盛り付け、楽しく食べることを大切にしています。子どもの発達段階に合わせてテーブルと椅子の高さを調整し、足をのせる台や背あてを活用しながら、子どもが食べやすい姿勢を保持するための工夫をしています。

季節を感じる献立や盛り付けに工夫を凝らし、子どもの食べたい意欲を高めています

連携認可園の栄養士が作成した献立表に基づき、季節のメニューを取り入れています。節分の行事食では、焼きそばの髪とウインナーの角で鬼をイメージしたり、ハロウィン、クリスマスなど見た目にも楽しい盛り付けを工夫しています。食育会議を通して、当月の子ども達の食べ具合や翌月の提供方法を検討し、「おいしい」、「おかわり」という子どもの声を引き出し、食べる意欲を高めています。献立表には、旬の食材や栄養士からの一言メッセージを載せ、「鮭のカレー竜田揚げ」、「鯖と玉ねぎの味噌煮」など家庭で作れる料理を紹介しています。

1～2歳児が参加できる食育活動に取り組んでおり、保護者の悩みにも答えています

食育計画に沿って職員も子どもと一緒に食事し、口もとを見せて言葉をかけ、咀嚼力の向上を図っています。毎朝食材に触れる機会を持ち「今日の野菜クイズ」で名称を知らせ、野菜や果物の匂いをかぎ、「どんな味かな」と予想して給食時に味わっています。芋煮会では子どもが白菜をちぎり、調理師が子どもの前で野菜を切り、大きな鍋で炒めています。保護者の悩みには、野菜嫌いは素揚げにすると食べやすくなること、小食の場合は小粒のお握りを「こっちは何かな」と食べ比べるなど、楽しく食べる工夫を記した「調理師の手紙」を渡しています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>心身ともに丈夫で健康な子どもであることを、園の保健計画の目標としています</p> <p>「心身ともに丈夫で健康な子ども」を保健計画の目標に定め、活動を進めています。連携認可園の看護師と連携し、生活リズムを整えることや手洗い・うがい、積極的な外遊びで薄着を進めること、暑さ・寒さに対応できる身体作りについて、実践を通して子どもに分かりやすく伝えるなど、自分の身を守る力を高めていけるよう支援しています。また、毎月の内科健診で体調を確認し、成長段階や心身の状態により配慮が必要なことを継続的に把握しています。園内は換気と消毒の徹底を図り、職員は子どもに多い肌トラブルへの適切な対処法等の知識を得ています。</p> <p>0歳からできる体力作りを取り入れ、子どもがけがをしない身体を作っています</p> <p>0歳児に安全な環境を作るとともに、けがをしない身体作りを進めています。歩けないうちから手足を動かすことを大事にし、動きたい気持ち、立ちたい気持ちに応える関わりを進めています。日常的にマット等で作った起伏をよじ登ったり、トランポリンで跳ねたりすることが、体幹や瞬発力、バランス感覚を鍛えることにつながり、けがが少ないことに結び付いています。また、屋外活動では、車や自転車との安全な距離の取り方、土とコンクリートでは異なる気を付け方等を知らせるなど、子どもたちが様々な経験をする中で自らの身の守り方を伝えています。</p> <p>感染症や健康作りに関する情報を、資料配布や掲示等で保護者に提供しています</p> <p>入園時に、重要事項説明書に沿って、感染症や乳幼児突然症候群(SIDS)について、園と家庭の基本的な対応や役割を保護者に説明しています。また、感染症の発生時には、注意喚起を含め具体的な対策を伝えています。保健だよりでは、季節的に流行がみられる疾病等の情報、生活リズムの整え方、虫歯を防ぐ習慣など、子どもの健康作りに関する記事を掲載しています。子どもの健康の維持や増進のために、適切に情報を提供して相談体制を整えるほか、コロナ禍では保護者の体調の把握にも努めるなど、家庭との連携を図りながら取り組んでいます。</p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

個々の家庭と十分にコミュニケーションを図り、事情に配慮して支援を行っています

入園説明時や個人面談で、保護者の子育て状況や就労状況等を把握しており、保育時間や活動は、家庭のその時の状況や意向にできる限り応えることを基本としています。日常的に職員は、発達に関することをはじめ、在宅ワークや変則的な勤務シフト等の就業状況、家族の心身の状態について、何でも話を聞くという姿勢で接しており、保護者の安心につなげています。利用者調査では、何でも相談できる信頼関係、子どもの気持ちを大切にしている対応をはじめとする保育活動全般の全項目に、全ての回答者が肯定的に答える結果が得られています。

保護者同士の交流機会を設けるなど、保護者と育児や発達の共通認識を得ています

子どもの姿をみてもらう機会を積極的に作っています。全ての家庭が会する「遊ぼう会」では、保護者同士、また職員とゆっくり話すことで交流が深まっています。また、1家庭ずつが午前中の保育に参加した後、続けて給食の試食や個別の面談を行う保育参加は、子どもの普段の過ごし方を見ながら職員と成長を喜んだり子育ての悩みを共有する機会となっています。園が大切にする保育、活動の方針は折に触れ丁寧に伝え、子どもの好きな遊び、玩具、仲間同士の関わり合い、職員が発見した子どもの以外な姿など、活動の様子はおたより等でも伝えられています。

相談の機会や各種情報の提供により、保護者の不安解消や養育力向上を図っています

保護者が子育てで悩んでいると思われることについては、職員も保育のヒントにする書籍等から引用して、おたよりで紹介しています。また、保護者の悩みが多いトピックに関しては、シリーズ化して詳しく伝えています。例えば、しつけというテーマでは、しつけの意味や叱らない関わり方を継続的に取り上げることもあります。個別の相談ごとがあれば保護者と共に考えたり、外部機関の専門的な助言を取り入れるなど、支援の在り方を検討しています。何か問題があれば時間をかけて丁寧に関わり、見通しを共有することで保護者の不安解消につなげています。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

日常的に地域にお散歩に出掛け、近隣との良好な関係作りを大事にしています

地域に開かれた保育園になるよう、職員が率先して地域との関係性を築いています。住宅街にある立地のため、子どもの声の大きさを気にしながらも伸び伸びと過ごせるよう、挨拶や会話を交わすなど、良好な関係維持に努めています。また、スーパーやパン屋さんでの買い物をはじめ、開放している競馬場内で遊んだり、電車やバスに乗って公園に出かけるなど、地域にある様々な資源で子どもが多様な経験を重ねています。職員が地域の人と関わる姿を見たり公共の場でのマナーを知るところから、社交性や社会性の芽生えが育まれています。

連携園との活動や地域の顔見知りとの遊びなど、様々な人との交流の機会があります

子どもの生活の幅を広げる視点から、職員以外の人と交流する多様な機会を設けています。連携園との継続的な交流があり、公園で落ち合ったり園庭や行事に招かれるなど、一緒に過ごしています。度々顔を合わせる中で「〇〇くんいたね」等の言葉もみられ、仲間意識や対抗意識が芽生えるなど、心の成長につながっています。また、散歩先の公園で顔見知りになったサークルの活動の仲間に入れてもらい、一緒に輪投げ等で遊ぶこともあります。日常的に子どもは色々な世代の人に優しい言葉をかけられる交流があり、可愛がられることを実感しています。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	行政や専門機関と連携を図り、配慮を必要とする子どもに適切な環境を作っています	
内容①	園では皆で一緒に活動することを基本とし、大人も子どもも、ありのままの存在を認め合うことを大事にしています。配慮を必要とする子どもに、より適切な環境を整えることにも力を入れ、療育センターをはじめ、発達障害のある子どもなど多様な発達をする子どもたちの理解を支援する専門機関と連携が図れる体制を築いています。保護者の意向も受けて、園を訪問する専門機関の職員から、家庭や園で活かせる具体的な関わりや支援についてアドバイスをすることもあります。子どもの発達の多様性について理解を深め、一緒に活動する環境作りにつなげています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	調理師と連携園の栄養士が協力して食の楽しさを伝え、保護者への支援を行っています	
内容②	連携園と同様の献立表を使用しながらも、給食を提供する子どもの人数に合わせて、味付けや食材の購入方法を工夫しています。定期的に訪れる連携認可園の栄養士と連携し、互いの給食を試食する機会を持ち、野菜の茹で加減や切裁の大きさなど率直に意見交換し、調理技術を向上させています。食に関する悩みを抱える保護者には、離乳食の進め方や食べにくい食材を食べやすくする調理方法を説明し、家族で楽しく食べることの大切さを伝えています。調理師は子育て支援員研修を修了しており、保育にも携わり、子どもたちに身近で安心な存在となっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの育ちを大切に、みんなが笑顔で通える保育園を目指して、一人ひとりの個性を発揮できるのびのびとした保育を豊かに展開しています
	内容	「それぞれの子どもの育ちと自己主張を大切にみんなが笑顔で通える保育園」を保育目標に、少人数の落ち着いた環境の中で、子どもたちが心身共に安定して過ごせるようにしています。個々の発達に応じた基本的な生活習慣の自立を目指してゆったりと関わり、「できた」という気持ち(達成感)を大事にしています。職員は、子ども一人ひとりの個性や興味・関心を見極め、自分で選んで楽しめる活動を提供し、自ら動き出すことを信じて見守っています。やりたいことに挑戦し、発見や共感を繰り返しながら成長する子ども主体の保育を豊かに展開しています。
2	タイトル	保護者とのコミュニケーションを密に、子どもと家庭のペースを尊重する姿勢があり、安心できるもうひとつのお家となる園を作っています
	内容	親と子が安心して生活ができる「もうひとつのお家のような場所」となるよう、温かな保育を提供できる園作りを進めています。朝から夕方まで同じ職員が子どもに愛情深く関わり、子ども同士は気持ちをぶつけて喧嘩したり、我慢したり、許したりすることからお互いを深く理解する、兄弟姉妹のような関係を築いています。丁寧に寄り添い、豊かな心を育む園の方針は、保育活動を体感する機会の提供やおたより等を通じて伝えていきます。共感を得ると同時に、家庭のこだわりやペースがあれば最大限尊重する姿勢を示しており、親子との信頼関係を築いています。
3	タイトル	手厚い職員配置と共通理解による安定した保育体制を確保して、一人ひとりの子どもの発達に応じた保育と保護者支援を提供しています
	内容	家庭的保育事業として開設されている当園は、子どもの定員5名に対し、家庭的保育者(管理者)を含む保育士3名と調理師1名の職員4名という手厚い人員配置となっており、同一法人内の連携認可園の園長や看護師、栄養士の支援や協力も得て、安定した保育体制を確保しています。管理者を含めた職員全員が法人の目指す保育の理念や方針をよく理解した上で、日々話し合いや学びの機会を多く持ちながら、同じ方向性を持って保育を行うことで、共通理解や専門知識を深め、一人ひとりの子どもの発達に応じた保育と保護者支援を提供することができています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	当園の課題を法人の中・長期計画や独自の中期計画・事業計画等に位置付けて、取り組みの方向性を明らかにすることが望めます
	内容	法人及び連携認可園の中・長期計画がありますが、当園に直接関わる内容が設定されていないこともあり、職員には共有されていません。収集・把握した意向やニーズ等から、保育面に限らず、当園の運営・業務上に関わる課題も含めてリストアップし、複数年かけて解決していけるように、課題別の取り組みや、その着手時期、実行期間等を法人の中・長期計画に盛り込んだり、園独自の中期計画を策定するなどして、方向性を明らかにすることが望めます。法人との協議の場も設け、当施設の改善課題に合わせた予算提案等ができる仕組み作りも期待されます。
2	タイトル	日々の振り返りや打ち合わせなど、蓄積された運営や保育に関する記録を整備し、マニュアル作り等につなげる取り組みが期待されます
	内容	家庭的保育事業ならではの少人数での家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりの心に寄り添い丁寧な保育を行っています。保育理念「子どもの最善の利益を基本に子どもらしい子どもを育てる」に基づき、個々の発達に応じた生活力を身につける工夫や保育の展開について職員間で日々振り返り、話し合いを行っています。今後は職員会議時に限らず、これらの打ち合わせ等の内容も具体的に記録し、次に活かせるようにすることが望めます。整備した記録を基に業務を見直し、独自の心得やマニュアルの作成等、さらなる質の向上につなげるのが期待されます。
3	タイトル	法人内での合同研修や情報交換の機会を設けて全体の共通認識を深め、より密接な連携や協力がし合える体制を作ることが期待されます
	内容	入職時に法人内研修を実施し、その後は園内でOJTを行うとともに、正職員は年2回以上、非常勤は年1回以上の外部研修の受講を必須とし、各自の希望を基に派遣して、報告書の回覧や会議での発表を通じた研修成果の共有化にも取り組んでいます。しかし、近年のコロナ禍を受けて、法人内での合同研修や情報交換の機会は減少しています。法人の理念や中・長期計画、倫理法令遵守等に関する内容については、改めて当園の職員に対しても説明や研修の場を設けて全体の共通認識を深め、より密接な連携や協力がし合える体制を作っていくことが期待されます。